



平成
25年度
認定

ピアノ調律技能士

おおもとよき
大友 豊輝さん

ピアノの調律をはじめ、ピアニストからの多種多様な要求に対し、迅速かつ丁寧に応える技能を持っている。日本のピアノ史に残る価値の高いピアノの解体修復作業にも取り組むマイスターである。

ピアノの調律とは、音の高さや音程を正しく整える作業の他に
整調：鍵盤の弾き心地を整える
整音：音色を整える
という作業があり



これらの
3つの作業を合わせて
一般的に調律と呼んでいる

演奏者が
気持ちよく
演奏できて、
聴く人が
うっとりするような
ピアノに仕上げるのが
私の仕事だよ

私の母が自宅で
ピアノを教えていたので
幼い頃からピアノに
慣れ親しんでいた

けれども本気で
音楽の楽しさに
目覚めたのは
高校生の時

それで大学進学の際に
家に来ていた調律師の勧めで
国立音楽大学の調律専修科に入學
そこで2年間調律の基礎を学んだんだ



ピアノ調律技能士
大友 豊輝 さん

大学卒業後、東京の
ピアノ修理工房に
弟子入りして
解体修復技術を
学ぶ

4年間修行した後には
現在の会社に就職

放送局や
コンサート会場など
プロフェッショナルの
現場で緊張しながら
調律の経験を重ねて
いった



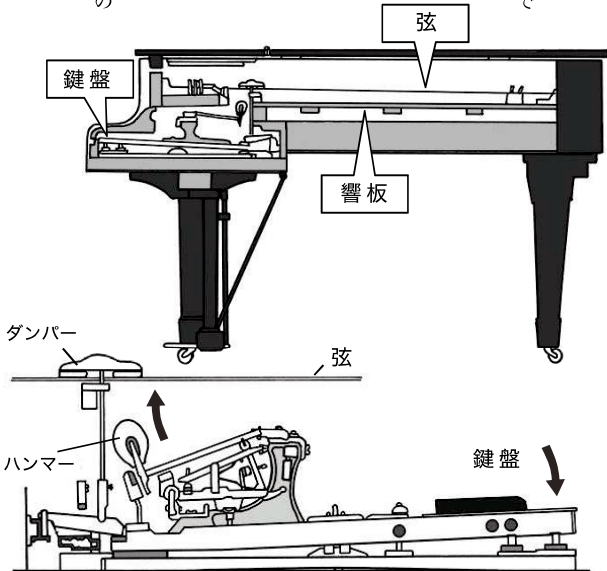
さらには上の技術を
身につけたたくて
アメリカの名門
ジュリアード音楽院の
技術部門に席を置く
ここで
日本では得られない
貴重な技術習得の経験を
重ねることができたんだ



※ジュリアード音楽院は
アメリカの名門音楽大学で、
多くの音楽家を排出している

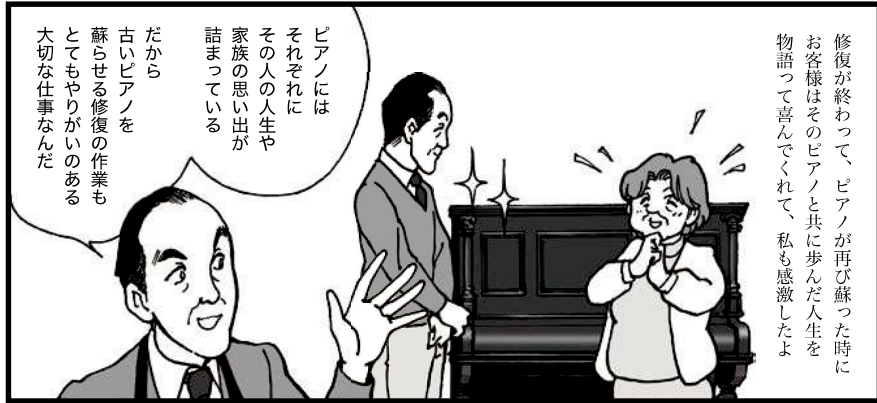
ピアノはおおよそ
8000個の部品で
出来ている

一つの鍵盤を
たたいて
音が出るまでも
約70個の部品が
使われていて、
それらの部品が
正確に動くには
100分の5ミリの
精密な調整が
必要なんだ



ピアノの部品には
木材や羊毛などの天然素材が
多く使われていて、
それらの部品は温度や湿度、
照明があたっただけでも
狂いが生じてくる
デリケートな楽器なんだ

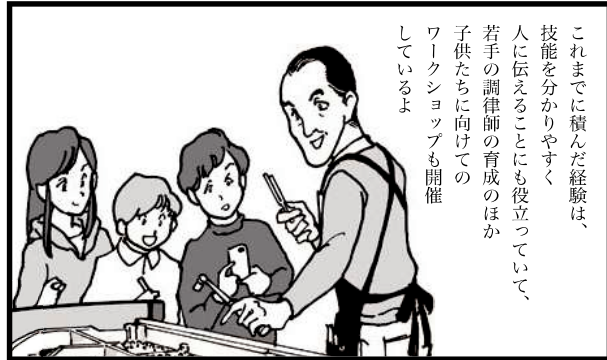




ピアノにはそれぞれにその人の人生や家族の思い出が詰まっているから古いピアノを蘇らせる修復の作業もとてもやりがいのある大切な仕事なんだ

修復が終わって、ピアノが再び蘇った時にお客様はそのピアノと共に歩んだ人生を物語って喜んでくれて、私も感激したよ

仕事には自信と責任を持っている！これからもお客様と一緒に良いピアノを育てて行くよ



これまでに積んだ経験は、技能を分かりやすく人に伝えることにも役立っていて、若手の調律師の育成のほか子供たちに向けてのワークショップも開催しているよ

またピアノ調律師技能士の国家資格も取得し、現在は、資格試験の検定委員も務めている

一級技能検定合格証書

調律師技能士 大友 氏名

※2011年に国家資格制度が始まり、大友さんは初年度に合格して1級ピアノ調律師技能士の資格を取得しました

能力開発促進法の定める技能検定に合格し、本書を授与し右の技とを認める

マイスター☆情報 (株) サンフォニクス

ピアノの調律はもちろん、解体修復、ピアノ販売・レンタルなどピアノに関する業務を総合的に行っています。

- 住所 / 川崎市中原区宮内 2-29-5 ● 電話 / 044-874-3360
- FAX / 044-741-3390 ● 営業時間 / 10:00 ~ 18:00 ● 休み / なし
- ホームページ / <http://www.sunmuse.co.jp/>



調律は、音を正しく合わせれば良いというものではない

やわらかであたたい、ほんわかした音にして

大地を駆け抜ける風のような音がほしいんだ！

欲しいのはプリンミたいに優しいタッチさ

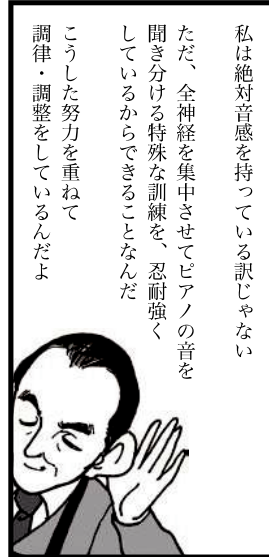
演奏家のそれぞれに違う音に対するイメージや弾き心地の好みを理解して技術的に具現化することが求められるんだ



そのためには演奏家ととことん納得のいくまで話し合う作業をする

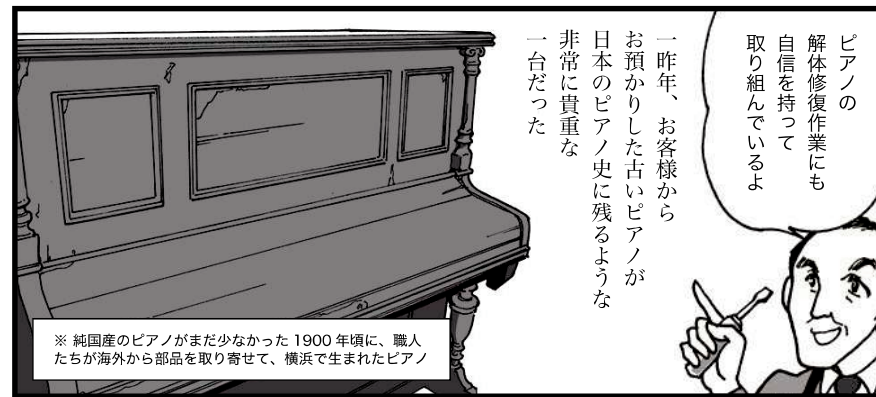
この作業こそがピアノに対する的確なアプローチを可能にして、最高の音楽創造につながるんだ

さすが！大友さんの調律はカンベキだ！



私は絶対音感を持っている訳じゃないただ、全神経を集中させてピアノの音を聞き分ける特殊な訓練を、忍耐強くしているからできることなんだ

こうした努力を重ねて調律・調整をしているんだよ



ピアノの解体修復作業にも自信を持って取り組んでいるよ

一昨年、お客様からお預かりした古いピアノが日本のピアノ史に残るような非常に貴重な一台だった

※ 純国産のピアノがまだ少なかった1900年頃に、職人たちが海外から部品を取り寄せて、横浜で生まれたピアノ